

前田北中学校区 小中一貫した教育グランドデザイン

地域の実態・願い

一軒家が多く、経済的にも安定している。保護者・地域ともに協力的であり、子どもが楽しく通える学校を望んでいる。災害時の連携を必要としている。

札幌市の「小中一貫した教育」の目的

「自立した札幌人」の実現に向け、義務教育段階において「知・徳・体の調和のとれた育ち」の一層の充実を図る

9年間を通した
子どもの学びのつながり

子ども理解・生徒
指導の連続性

推進の
視点

教職員の
連携・協働

家庭や地域との
関わり

子どもの実態

明るく素直な子どもが多い。話をしっかり聞くことができる。学習態度はやや受け身で、発表も少ない。計画的に学習することが苦手な子どもが多い。

前田北中学校区・目指す子ども像

前田北中学校

心豊かにたくましく、未来を拓く生徒を目指して

- 高い知性を磨く
- 豊かな感性を培う
- たくましい心身を養う

- ・共に学び、考え、知性を磨き合う子
- ・豊かな心で接し、互いに認め合い、励まし合う子
- ・健康な心身を保ち、粘り強く行動する子

知・徳・体 調和のとれた育ち

前田北小学校

あったかい学校 あったかい学級

- 深く考える子
- 仲良く助け合う子
- がまん強い子
- 明るく元気な子

具体的な取組

【知】

- (小学校)・子どもが自ら考え、判断し表現する活動の充実
 - ・自分への自信をもたせるきめ細かい指導の充実
- (中学校)・意味理解を伴った知識や技能の習得に向けた、授業の工夫改善
 - ・学習の過程や成果を適切に評価するための研修の推進
- (共通)・**防災教育を軸とした探究的な学び(CSと連携)**
 - ・1人1台端末の効果的な活用
 - ・家庭学習習慣の確立

【徳】

- ・基本的な生活習慣の確実な指導
- ・「道徳」授業の充実
- ・きめ細かな生徒指導と情報の共有と交流
- ・**合唱祭での小中交流(CSと連携)**

【体】

- ・なわとび活動の継続
- ・運動量を確保する工夫
- ・ノーメディアの取組の継続

小中一貫のスケジュール(仮)

- 4月？ 第1回 実務者会議(春の札教研について)
- 7月 情報交流 第2回 実務者会議 小学校訪問(中学教諭授業参観)について
- 9月～12月 小学校訪問(中学校教諭が授業参観)
- 11月 第3回 実務者会議
- 1月 情報交流と第3回実務者会議
- 2月 6年生の中学校訪問 6年生保護者への入学説明会
- 3月 交流会(新入生の引継ぎ 等)、第4回 実務者会議

CSのスケジュール(仮)

- 5月中旬頃 第1回 学校運営協議会(年間活動計画)
- 7月中旬頃 第2回 学校運営協議会
 - 熟議(地域防災教育計画、こもれびの日計画)
- 9月下旬頃 第3回 学校運営協議会 熟議(地域防災教育、合唱祭計画)
- 10月中旬頃 第4回 学校運営協議会
 - 熟議(地域防災教育、合唱祭計画、登下校時の交通安全)
- 2月中旬頃 第5回 学校運営協議会(反省、次年度の活動について)

評価

- ・積極的な交流事業や企画、情報交換等ができているか。
- ・目指す子ども像の実現に向けた取組ができているか。
- ・学習習慣など、連続性や系統性を意識した校種間連携ができているか。
- ・地域の願いを生かす取組が進められているか。

前田北中学校 社会に開かれた教育課程を創るために ～札幌らしいコミュニティ・スクールの実現を目指して～

<前提となる知識>

社会のつながりの中で学ぶことで、子どもたちは**自分の力で人生や社会をよりよくできる**という実感を持ち、**未来に向けて進む希望や力**をもつことができる。

縦の継続 小中一貫 横の連携 **コミュニティ・スクール**

出典：令和6年度 札幌市学校教育～子供一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり～ P10

★コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置した学校のことである。札幌らしいコミュニティ・スクールとして、次の2点が求められている。

①「**小中一貫した教育**」と**連動**した仕組みとする ②「**さっぽろっ子自治的な活動**」と**学校運営協議会をつなげる**ことで「**子どもの声**」を**学校運営に反映**させる。

<本校の取り組み>

前田北中学校区の目指す子供像を設定し、**知・徳・体調和のとれた育ちの実現**を目指していく。コミュニティ・スクールはそのための手段であり、令和7年度以降から段階的に実施していくものとする。

学運協では軸となる取組について話題にし、より子供達のためになる活動にできないか、熟議される。熟議された内容や、関係機関との連絡調整をCS担当者が、また、実務担当者や連携しながら、教職員との合意形成を図っていくイメージ

知に関わる側面は、生徒指導部と
徳に関わる側面は、生徒会部と
体に関わる側面は、生徒会部と

いつ、だれが、どのようにそれぞれの取り組みをCSの取組に関わっていくかを明確にしていきたい。

知

前田北中学校区の取組

「知・徳・体」調和のとれた育ち

軸となる取組

■安心・安全を守る取り組み
(防災教育の充実)

↓子供の声を聴く
(想定される変化)

■科学大学との連携
■地域や小学校との合同避難訓練？



防災訓練の様子

取組内容
・防災教育を軸とした地域・小学校との連携？
・事後アンケート等で子供の声を聴き、次年度の取組に反映させる流れをつくる。

課題

・現段階で大きく防災教育に方向転換したので令和7年度からの実施は難しいと考えられる。
・科学大学との連携によって、どのような活動が模索している段階。小学校はどうするのか？

SAPP
RO

<知・徳・体に関わる活動の進捗状況>

「知」…防災教育

- ・今後、防災教育を軸に前田北中、前田北小で小中一貫した教育を行う計画を進めていくよう共通理解を得ることができた。(校長間)
- ・科学大学と連携しながら活動を充実させる。
- ・将来的には、小中、大学、地域が一体となって行う合同避難訓練につなげていくことも想定

「徳」…合唱祭

- ・現在小学生が合唱祭を参観しているものを、小中の音楽の交流にしていく。次年度は全校合唱「大切なもの」を小学生も歌うことを計画中。
- ・将来的には、小学生が発表する時間を設けたり、地域の方の発表の場を設けたりすることも想定

「体」…こもれびの日

- ・昨年度実施予定だった保護者参加種目を取り入れる予定
- ・当日の保護者参加種目に関して、子どもの声を取り入れることも想定。小中一貫と連動はしていないのが課題。

徳

前田北中学校区の取組

「知・徳・体」調和のとれた育ち

軸となる取組

■合唱祭での小中の交流

↓子供の声を聴く
(想定される変化)

■参観から音楽の交流へ
小学生、地域の方との音楽交流



合唱祭を参観する6年生

取組内容
・合唱祭を通じた、小中または地域との文化的交流
・事後アンケート等で子供の声を聴き、次年度の交流の仕方等について検討する流れをつくる。

課題

実情として全校合唱の交流程度にとどめたいというのが先生側（小中共に）の気持ちのような気はする…悩ましいところです。



体

前田北中学校区の取組

「知・徳・体」調和のとれた育ち

軸となる取組

■こもれびの日での地域との交流

↓子供の声を聴く
(想定される変化)

■保護者の方の参加
■当日の競技などについての工夫



こもれびの日の様子

取組内容
・こもれびの日を軸とした保護者（地域）との連携
・事後アンケート等で子供の声を聴き、次年度の取組に反映させる流れをつくる。

課題

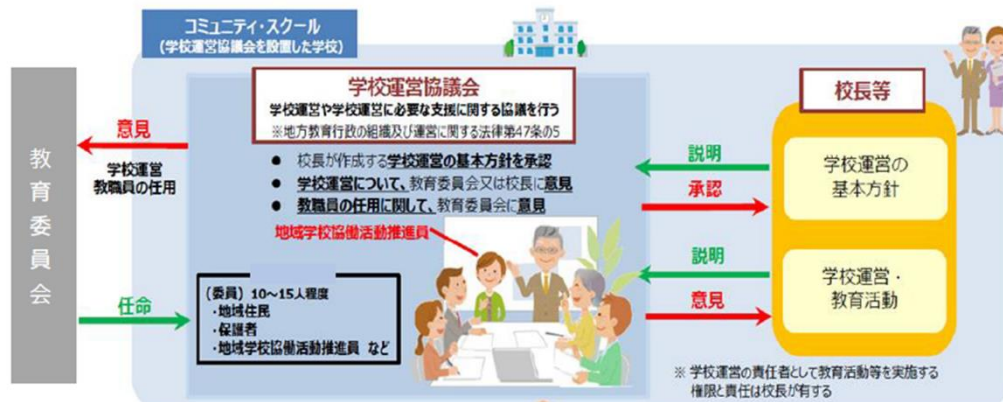
・今年度保護者が参加できる種目として玉入れの実施を試みたが雨天により中止となった。
・地域との連携は十分にできるという点と生徒の声を反映できる範囲がある程度決まっていやすい。※生徒会担当者にとっては負担はあるのである程度覚悟しないといけない。



SAPP
RO

<資料>

① コミュニティ・スクールとは？



法律に基づく学校運営協議会の主な役割

- ①校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること
- ②学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができること
- ③教職員の任用に関して、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べるができること

③ 札幌らしいコミュニティ・スクール

札幌らしいコミュニティ・スクール

～学校を核として、子どもと社会をつなぐための仕組み～

※令和6年度から令和10年度にかけて準備が整った学校から順次導入します。

学校運営協議会を子どもの「自主的な活動」を応援する窓口

学校運営協議会では、子どもの声を聴き、子どもにとって本当に必要なことは何かを一緒に考えていくことで、学校・家庭・地域が子どもの「～したい」を支える応援団となつて、子どもの成長を支えています。

札幌らしさ

- ①「小中一貫した教育」と連動した仕組みとする
- ②「さっぽろっ子自主的な活動」と学校運営協議会をつなげることで「子どもの声」を学校運営に反映させる。

② コミュニティ・スクールの魅力・メリット

子どもにとっての魅力

- ・子どもたちの学びや体験活動が充実します。
- ・地域への愛着が生まれ、地域の担い手としての自覚が高まります。
- ・防犯・防災等の対策によって安心・安全な生活ができます。

保護者にとっての魅力

- ・学校や地域に対する理解が深まります。
- ・地域の中で子どもたちが育てられているという安心感があります。

地域の人々にとっての魅力

- ・地域の防犯・防災体制等の構築ができます。
- ・経験を生かすことで生きがいや自己有用感が生まれます。
- ・学校運営協議会により地域ネットワークが形成されます。

教職員（学校）にとっての魅力

- ・地域人材を活用した教育活動が充実します。
- ・地域の人々の理解と協力を得た学校運営や「社会に開かれた教育課程の実現」が可能となります。

※参考文献 文部科学省

④ 家庭や地域とともにある学校づくり



<11月5日(火)科学大学との打ち合わせ>

○科学大学の細川和彦準教授が前田北中学校区の学校運営協議会に参加していただくことが決まった。

地域共育センター主任を兼務しているため、大学と地域の連携に関する問い合わせの窓口を担当している。

学運協の「子供達のためになにができるか？」という熟議の内容に応じて「大学として何ができるか？」について検討して下さる役割

○防災教育を軸として、小中一貫した教育(縦の継続)とCSの取組(横の連携)について計画していくことが決まった。

※小学校側と科学大学側からの了承を得ることができた。

○何の見返りもなくただ協力していただく形ではなく、双方にとってきちんと利益が生まれる線を探していく必要がある。

学校として「ここまではできて、ここからはできない」という線は、はっきりとさせながら熟議を進めていきたい。

前田北中学校側のメリット

- ・有事の際の安全を守る取組として、将来的には学校と地域合同の避難訓練を目指していきたい。
- ・防災教育を軸に、教科横断的な学習を計画していく中で、科学大学の力を借りることで、体験的な学習を充実させることができる。
- ・大学教員、学生がT1の授業なので教員の負担軽減

科学大学側のメリット

- ・防災に関わるイベントは集まりが悪く、参加人数を増やし、小中学生と大人の異世代の交流を深めるきっかけにしていきたい。
- (例)防災キャンプ、防災まち歩きなどのイベント
- ・将来的に地域活性をテーマとする文系学部学生の派遣の場のひとつにしたい。

今後の動き

- ・防災教育を“知”を育む軸としていくが、教科横断的な学習として、どこまでの質の学習を計画するか、共通理解を図りたい。
- ・「知」の防災教育について、授業時数としてどのコマ(学・道・総)を当てるのか、何時間程度可能なのか検討していく。今のところ道徳が有力。

○科学大学細川準教授の実践事例を紹介したい。何をやるかを職員会議で決めるわけではないが、実践1に関しては、小さな流れをつくるにあたって始めやすい実践である。実践2に関しては、現在休日に開催している実践であるが、参加数は少なく、科学大学側も困っているイベントである。例えば、将来的に札教研の日を「防災の日」に設定するなどし、今あるイベントを活用した授業を考えることも可能かもしれない。

実践1: 冬季の防災について(1h)

- ・冬季に大地震が発生した場合に、どのような備えが必要なのか。また、避難後の生活ではどのような危機が考えられるのか。など、細川先生自らが講座を開いた事例(富岡小学校で実践)

実践2: みんなで防災まち歩き

- ・今年度10月6日(日)に3時間半程度で実施、街の人が防災について自分事で考えるきっかけづくり。
- ・H31に発行された手稲鉄北地区防災マップを、もっと見やすく、もっと便利なものに更新していく活動
- ・まちに住むみんなで、街のことをもっと知り、危険な場所、安全な場所に気付く、考える、話し合う活動
- ・大学生がファシリテーターとなって、実際に街歩き、まとめ、成果交流を行う。

